

エコライフの実践現場から

「エコライフ」の 定着を目指して

滋
賀
県

ナビゲーター

滋賀県エコライフ推進課

Shiga prefecture office

ECOLIFE promotion division



美しい自然が残る琵琶湖は、滋賀県のシンボル

時代を先取る 滋賀からの挑戦

滋賀県は、昭和五十年代、琵琶湖における赤潮の大量発生の原因といわれた有機合成洗剤利用の見直しをきっかけに、県民あげて環境問題への取り組みを積極的に行ってきた「環境熱心県」として知られている。

琵琶湖をはじめ、滋賀の豊かな自然を次世代に引き継ぐため、現在も様々な形で環境問題への取り組みが行われているが、「水環境保全、省資源・省エネルギー、リサイクル」など環境に負荷を与えない生活（エコライフ）の意識を醸成し、日々の生活の中で具



「エコライフ」という生活者価値

シンポジウム「21世紀型ライフスタイルの創造」



ISO14001の考え方を一般家庭にも取り入れようと考えられた家族ISOプログラム「ISOエコ家族」。中のチェックシートにより、自分の家の「エコライフ」ぶりが一目瞭然になる(なお取り組み結果に応じ、認定書や参加記念品が呈される)



各方面の専門家が集まったパネルディスカッションでは、サマータイム導入の意味が、多面的に討論された



6月23日に催されたシンポジウム「21世紀型ライフスタイルの創造」(副題:サマータイムを考えてみよう!)では、昨年、滋賀県で行われた「サマータイム導入実験」の成果発表が行われた

環境学習への取り組み



環境セミナー船みずすまし号では、湖上での環境学習が実施される



8月6日から8日にかけて開催された「こども環境交流事業」では、山梨、静岡、滋賀の子ども達が環境学習に取り組んだ

滋賀県琵琶湖環境部エコライフ推進課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1
TEL.077-528-3492(ダイヤルイン)
URL: <http://www.pref.shiga.jp/d/ecolife/>



「びわ湖の日」(7月1日)に実施された環境美化活動では、県民・企業・行政が一体となって琵琶湖湖畔の清掃が行われた

体的な行動につながるよう、さまざまな形で啓発を行うことを目的として平成八年に「エコライフ推進課」が設置された。同課が取り組む事業の一つの大きな柱は、「新しい環境習慣」の推進。その一つとして、一人ひとりのライフスタイルを「エコライフ」に変えていくことを目的とし、ISO14001の考え方を利用して親しみやすい形で日々の生活を見つめ直すことができる、家族ISOプログラム「ISOエコ家族」と名付けた環境家計簿を作成し、各家庭での取り組みを広めている。

また、自然のサイクルにあったライフスタイルを見出す観点から、昨年「サマータイム」に着目し、サマータイム制度の早期実現を国に提案するとともに、県職員を対象に実施された実証実験は、全国から大変注目されたことは記憶に新しい。

そして、持続可能な環境配慮型の社会の仕組みを構築していくために、力が入られているのが環境学習。幼児が自然の中で遊びを通じて学ぶ、自然体験教室や小学校で子ども達が地域を巻き込んで主体的に環境に関する実践活動を行う「エコ・スクール」など、多様な取り組みが展開されている。この四月には、全国に先駆けて「滋賀県環境学習の推進に関する条例」が施行されたところである。

今後、県民への「エコライフ」の定着を目指した滋賀県の挑戦は続く。

(文責:CEL編集室)

CEL